

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27281 宮崎地場産品の機能性研究最前線ー畜産食品の秘密に迫るー



開催日: 平成27年11月14日(土)

実施機関: 宮崎大学

(実施場所) (農学部(木花キャンパス))

実施代表者: 山崎 正夫

(所属・職名) (農学部・准教授)

受講生: 高校生 12名

関連URL:

【実施内容】

<留意、工夫した点>

オリエンテーション、科研費に関する説明の後、畜産食品および食品供給を支える土の研究、機能性食品に関する座学を行った。さらに、畜産研究の最先端設備の見学、畜産食品の製造体験を実施することで受講生に対して、基礎研究から現場までの研究活用に関する流れの理解を深めるようプログラム設計した。当日は荒天のため、屋外でのフィールド探索を中止し、産業動物研究に関する施設で、ウシのライブ中継をしながら、Q&A形式でウシの生態に関する勉強を行った。受講者からはウシに関する素朴な質問も多く投げかけられ、家畜に関する理解を深めた。受講生にリラックスして講義を聴講してもらうため、畜産食品の機能性に関する講義はランチョンセミナー形式で実施した。イベントのメイン会場には科研費の研究成果として、敢えて学会で用いたポスターを展示し、最先端の研究成果に触れてもらう機会を設けた。ソーセージ作り実習では、単なる加工実習とならないよう、畜肉の加工特性を理解しながら作業できるプログラム構成とした。ティータイムでは一方的に受講するだけでなく、大学生、大学院生とディスカッションをする機会とすることによって、研究内容の理解を深めることができた。受講生も集中力を切らせることなく、すべてのスケジュールを過ごすことができた。

<当日のスケジュール>

- 9:00～ 9:10 受付(宮崎大学農学部ピロティー集合)
- 9:10～ 9:25 開校式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
- 9:25～ 9:45 食を育む土の研究紹介(学科長:佐伯 雄一)
- 9:45～ 9:50 休憩
- 9:50～10:20 講義「宮崎地場産品の機能性研究最前線ー食と健康を考えるー」講師:山崎 正夫
- 10:20～10:30 休憩
- 10:30～12:00 フィールドワーク:宮崎大学フィールドの散策
- 12:00～13:00 ランチョンセミナー:「畜産食品の機能性」(講師:仲西 友紀)
- 13:00～16:00 体験実習(ソーセージ作り)
- 16:00～16:30 ティータイム:宮崎大学 Milk とソーセージを味わいながらのディスカッション
- 16:30～17:00 修了式(アンケート記入、未来博士号授与)
- 17:00 終了・解散

<実施の様子>

ウシの様子をライブ中継 ランチョンセミナー

ポスター展示



実習風景

集合写真

ティータイム



<事務局との協力体制>

- ・財務部及び研究国際部が委託費の管理、支出報告書の確認を行った。
- ・研究国際部研究推進課が日本学術振興会への連絡調整及び提出書類の確認等を行った。
- ・大学 HP（学科、学部）および学部 Facebook を活用し、同イベントの周知を行った。

<広報活動>

イベントの受付は日本学術振興会の HP 上のみで行った。8月に実施したオープンキャンパス、県内で実施した出前実験において本イベントの PR を行った。大学 HP (学科、学部)および学部 Facebook を活用し、同イベントの周知を行った。また、県内高校に向けて開催案内を郵便により通知を行った。

<安全配慮>

特に刃物、火を使う実習においては受講者 3 名に対して 1 名の研究協力者を配置し、安全な手順の指導と監視を徹底することにより安全を確保した。ソーセージ作りの実習においては衛生管理の徹底のため、食品加工室にて作業を実施し、受講者はグローブ、長靴、マスク、ディスポキャップ、白衣を着用した。作業前には十分な手洗いを徹底した。集中力を切らさないため、講義の時間は連続で 25 分を上限とした。

<今後の発展性、課題>

今回のイベントでは畜産食品を題材とした講義・実習を実施しており、畜産県である宮崎県の高校生にとっては科研費による研究成果を身近に受け入れやすかったのではないかと考えられる。直前になり部活、家庭の都合等でキャンセルが続いたため、やや参加者が少ない結果となった。県内を中心に広く PR 活動を実施したが、参加対象とした高校生に対して十分な PR ができておらず、より浸透性の高い PR 方法での宣伝が必要であった。本イベントでは畜産食品の講義・加工実習を行ったが、本イベントの実施代表者は植物性食品の機能性に関する研究を実施しており、様々な科研費の研究成果を還元するために今回のイベントの経験を生かして次なるイベントの企画に生かすことができると考えている。

【実施分担者】

佐伯 雄一(農学部・教授(学科長))

西山 和夫(農学部・准教授)

窄野 昌信(農学部・教授)

河原 聡(農学部・教授)

仲西 友紀(農学部・准教授)

榊原 啓之(農学部・准教授)

水光 正仁(農学部・教授)
榊原 陽一(農学部・教授)
黒木 勝久(農学部・助教)
江藤 望(農学部・准教授)
酒井 正博(農学部・教授)
引間 順一(農学部・准教授)
河野 智哉(農学部・准教授)
國武 久登(農学部・教授)
平野 智也(農学部・准教授)
山本 昭洋(農学部・助教)
太田 一良(農学部・教授)
吉田 ナオト(農学部・教授)
井上 謙吾(農学部・准教授)

【実施協力者】 11 名

【事務担当者】

山崎 勝也 研究国際部研究推進課研究推進係・係員